

人形の歴史

込められた想い

7/26(土) - 9/28(日)

開館時間 午前8:30 - 午後4:30

長い歴史を持ち、時代や社会の変化に対応しながら人と共にあり続けた「人形」。幼子の健やかな成長を願う雛人形や五月人形、マンガやアニメに登場するヒーローやヒロインをかたどった人形など、私たちにとって人形は人生の思い出がいっぱい詰まったとても身近な存在です。

「東北三大土人形」と称され高い評価を得ている花巻人形は、花巻市博物館の主要な所蔵品であり、花巻の歴史を物語る代表的な人形です。

花巻市博物館開館10周年を迎えるに当たり開催される今回の企画展では、花巻人形を基点として、「日本の人形」の役割や時代による人との関わり、込められた想いを、時代ごとに紹介します。

I 人形のはじまり

《祈り・願い》原始・古代

日本の人形の歴史は、今から一万年ほど前の縄文時代の土偶にさかのぼります。土偶は人間の祈りや願いなど多くの感情を託されたもので、人あるいは精霊を表現したとも考えられています。

その後、災いやけがれを移す人をかたどったもの（人形の原型）が

生まれ、こうした信仰をもとに「流し雛」や「這子、天児(3歳以上の写真)」が作られるようになりました。

II 花開く人形文化

《様々な役割の人形たち》中・近世

中・近世になると、さまざまな性格を持つ多くの人形が誕生しました。社会が安定した江戸時代になると、雛人形をはじめ、人形製作技

法も目覚ましく向上し、精巧・優美な日本人形独特の作品が数多く生まれました。さらに、人形の役割も多種多様になり、庶民の生活文化に取り入れられ、娯楽としての人形なども製作されました。

花巻人形は江戸時代中期に作られたといわれ、花柄模様やきれいな彩色が施され、高価な雛人形に代わるものとして普及しました。

III 新たな人形の息吹

《人形は時代とともに》近・現代

明治時代以後には、欧米風の人形が主流となり、大正から昭和にかけてのセルロイド人形、ぬいぐるみや文化人形が流行しました。近年では、ブリキやソフトビニール製人形などが生み出され、テレビやマンガからの影響もあり、人形は友達やヒーローとして親しま

れる存在となりました。現代に至るまで、時代が変わっても人形そのものがなくなることはありませんでした。

◇ ◇ ◇

さまざまな役割を果たしてきた人形の変遷をたどるとともに、人形の魅力を再認識できる、今回の企画展にぜひお越しください。

■ 入場料

▽小学生：無料▽高校生・学生：150円(100円)▽一般：250円(200円)▽65歳以上：150円

※()内は20人以上の団体料金。常設展は別途入館料が必要

【問い合わせ】
花巻市博物館(☎32・1030)

原始・古代



遮光器土偶【浜岩泉Ⅱ遺跡出土】(田野畑民俗資料館蔵)



這子、天児(横浜人形の家蔵)

中・近世



からくり人形 鼠の宮参り(横浜人形の家蔵)



御所人形 お台人形 鶴(横浜人形の家蔵)



花巻人形(花巻市博物館蔵)

近・現代



青い目の人形(若葉小学校蔵)



文化人形(個人蔵)



鉄棒運動(壬生町おもちゃ博物館蔵)



関連行事を紹介します
※会場は全て花巻市博物館です

■ オープニングセレモニー
▽日時 7月26日(土)、午前10時

■ 花巻人形絵付け体験
▽日時 7月27日(日)、午後1時
30分〜3時

▽講師 平賀恵美子さん(平賀工芸社)

▽参加料 1500円から(絵付けする人形により金額が変わります)
※定員は20人。申し込みは同博物館へ

■ こけし絵付け体験・工房見学
▽日時 8月9日(土)、午後1時
30分〜3時
▽講師 煤孫盛造さん(工房木偶乃坊)
▽参加料 1500円

※定員は20人。申し込みは同博物館へ

■ 倉沢人形歌舞伎上演
▽日時 8月23日(土)、午後1時
30分〜3時30分
▽演目 三番叟、本朝廿四孝、傾城阿波の鳴門、景色



県指定無形民俗文化財の倉沢人形歌舞伎。人形遣い、義太夫語り、三味線などで構成されています

■ ギャラリートーク
▽日時 8月30日(土)、午後1時
30分〜3時

▽内容 同博物館の学芸員が今回の企画展について解説

■ 記念講演会
▽日時 9月6日(土)、午後1時
30分〜3時
▽内容 同博物館館長の高橋信雄による講演